

第3回 まちづくり市民協議会会議録

日時：平成27年8月18日（火）18時30分～

会場：市役所3階大会議室1・2号

出席者 委員 24名（欠席13名）
事務局 7名

1 会長あいさつ

梅雨が明けて暑い日が続いているが、皆様方は元気にお過ごしのことと思う。本日は全委員に発言してもらおうと開始時間を30分早めて18時30分から開始させていた

だいた。本日は3回目で、光市総合戦略中間案について事務局より説明をいただいて、その後皆様から意見をいただくこととしている。それぞれの立場で忌憚のない意見をいただきたい。

2 連絡事項

事務局より本日の議事の進め方について説明

- ・本日の議題は（仮称）光市総合戦略中間案についての1点である。
- ・4つの政策目標ごとに皆様の意見を伺いたい。（1つにつき20分）
- ・全体会議終了後、時間の許す方については、座談により意見交換の延長戦を行う。

3 議題

（1）（仮称）光市総合戦略中間案について

事務局より資料に基づいて説明

（2）総合戦略中間案を受けて、テーマ別意見交換

【政策目標①】「産業振興と雇用の創出」

●委員

雇用創出は大事だと思うが、光市には武田、新日鉄という二大企業がある。この二大企業の幹部と行政は意思疎通が十分図られているのか。業者が地域に何を要望しているのかをしっかりと受け止めているのか。

●事務局

両企業の幹部の方とはある程度の情報交換はしている。経済部の方で進めているし、市長、副市長のトップレベルでも頻度は定かではないが色々な情報交換は行っている。地元としての要望や意見は申し上げている。

●事務局

ご承知のようにこの二社は光市における大企業でありお世話になっているところである。当然市長や副市長の高いところのレベルで常に会社の方針あるいは市の方針について、定期的ではないにしても意思の疎通が図られていると思っている。ありがたいことに企業の方から地域の中で企業活動をしていく上で地域貢献をしたいという思いを前面に出していただいております、「光市に対して我々は何が出来るか」という立ち位置で協力していただき本当にありがたいと思っている。光市の進むべき道について理解していただいていると考えている。

●委員

具体的に光市に対してこういう風にやって欲しいと言う要望は企業の方から出ないのか。

●事務局

既に制度化されているが、新規の事業所を設置する場合の支援はないのかという要望はある。光市では新規事業所を設置した場合に固定資産税の5年間の減免をしているし、新規雇用者を雇った場合に一人につき20万円の支援をしている。雇用支援と企業の立地促進はしている。あとは、企業の方からどういうことをしてもらいたいのかぶつけてほしいと言われている。市は遠慮しているがぶつけてほしいと言っていたいただけるありがたい状況である。

●委員

光という地で雇用創出や起業することは、やはり大学があると大学と協働して色々なことができるが、光市には大学がなく、山口大学も遠いので地理的に難しいと思っている。大企業の協力企業が何かやろうとしても難しいところがあると思う。そこは大企業の協力を得ながらやらないといけない。非常に難しいがそれを克服しなければいけないと思う。

●事務局

光市内で企業活動をやってもらうことは雇用の受け皿になっているし、貴重な税を納めていただいているということが全てのサービスに還元されている。特に光市では法人市民税のウエイトは高く、市に対しての最大の貢献をいただいている。だから光市から逃げてもらったら困るわけで、それについて感謝しないといけないし支援もしないといけない、できることを考えていかなければいけないと思っている。

●委員

雇用創出とは少し離れるが、成果目標の中で3つあがっているが例えばある国であったように光市民の幸福度と満足度、住んでこれぐらい良かったというような指針が一つあれば5年後にどうかということがはっきり見えてくると思う。

一次産業、二次産業に就職できれば一番いいが、なかなかそれが厳しい状況で、六次産業化を光市として進めていくためには一つはもう一度光市内にはどのような仕事があって、どういう人に来て欲しいか、光市にはこういう仕事がありますよともう一度光市の良さの掘りおこしを行って仕事を造ることも非常に大事だと思う。そういうことを光

市のPRとして全国に発信していただきたい。

YouTubeで日本の良い所を見て、是非日本の地方に行って日本の文化を学びたいという外国人がたくさんいる。これが印象に残ったので光市も是非そういう面で日本の伝統文化を、例えば竹細工などを発信することが必要だと思う。

●事務局

幸福度、満足度について、これまでも行政に対する満足度という視点は重視してきたところである。このたびの総合戦略の中でも一つの指標として、例えば産業振興と雇用の創出の部分でも満足度を一つの基準としている。これを高めるということを今後目指していきたいと考えている。満足度をここに限らず全般的に取り入れたいと考えている。

仕事について、一つの着眼ということで、第一次、第二次、第三次産業を融合させた第六次産業化を進め、仕事の幅を広げていくことを戦略の一つに掲げて新しい仕事を生み出したいと考えている。

全国に向けての発信については、国が4月に「全国移住ナビ」というサイトを立ち上げてここに全国各地の移住情報が網羅されている。このサイトの充実を図りながら、必要な情報を載せていきたい。

●委員

産業振興のところで、基幹産業という言葉や、第一次産業や第二次産業といったジャンルで分けたものが並んでいるが、この計画の理論の中で外から何を呼び込むか、呼び込むために何をするか、移住という人を呼び込んで光の中を増やそうという話であるが、産業というのも二つの性格があり、一つは外から金を直接取ってくる、もう一つは内部で地産地消も含めて質高く経済を回していくということである。二つとも大事であるが行政が支援をしてその回り方をうまくする時にそういう切り口で考える必要があると思う。工業、商業、サービス業という切り口で資料を作っているように思えるが、そうではなく外から金を呼び込んでくることに対して行政が支援するとすれば、例えば移住ポータルサイトの話があったが光産品を全国や世界に発信する通販サイトを立ち上げて中小企業でも簡単に使えるようなものがあったらいいと思う。資料を読む中で思ったが、外から金を持ってくることにそこまでつなげていければ身になってくると思う。

●委員

ふるさと納税は納税者が特産品目当てでやっている部分もあるが、光市のお礼品で地元業者の製品が採用されればその業者が発展し、所得税が取れるなど還元してくる部分もあると思う。光市の強みは大手企業があることとPVにも出ていた自然である。一方で光市の弱いところは商業であると思う。人が住みたい町は商業が発展しているところだと思う。光市に商業施設がないから人々は外に出てお金を使うこととなる。そうではなく光市の中でお金を使ってもらうようにしなければいけない。そのためにはプレミアム商品券のような仕組みを使い、市内で消費してもらおうような仕掛け作りをすればいいと思う。

●委員

プレミアム商品券について、周りの友達にアピールしたが反応が薄い。すごくいい内容でもとっつきにくい内容だと難しい。もったいないと思う。学生が外に行くことについて雇用の第一次、第二次産業に対する魅力が薄くなっているのでは知らせる仕組みづくりが大切だと思う。実際に光市の学生で外に出て就職する人に対してそこに就職する理由は分析しているのか。

●事務局

そのような意識調査は行っていない。

●事務局

地産地消の問題については今取り組んでいる。仕事に対する価値観について具体的なデータは持ち合わせていない。一般論としてのアンケートではやりがいや給料等に対する考え方が分かるデータがあると思うが、光市の学生が具体的に何を求めて仕事をするかというデータは持っていない。アクションプランの切り口については、協議をしたときにわかりやすい計画を作らなければいけないという思いがあったため、このような分け方にした。今後検討したい。

●委員

学生のアンケートは山口県が高校生、大学生を対象にやった。新聞報道でもあったと思う。働く場所があれば地元に残りたいという意見もあったようだ。

【政策目標②】「都会からの移住促進と定住支援」

●委員

人を惹きつける魅力について、やはり「おっばい都市宣言のまち」ということが光市の唯一無二の魅力だと思う。素晴らしい自然はどこにでもあると思う。「おっばい都市宣言」は特別なものなので、そこから広げていくことが大事だと思う。

●事務局

PVの限られた時間の中で何をアピールするかを考えたときにまさしく子育て、「おっばい都市宣言」というものを中心に作っているのでは、また後で見ていただきたい。

●委員

雇用の創出というのは大手に頼るだけのやり方だけではなく、地域づくりの活動の中で第六次産業を里の厨のような所でもやっている。地域の中でプランを作って人を呼び込むことも大事である。産業を増やすと同時に空き家を活用して光市に住んで定着してもらうことが必要である。若者に光市に定着していただきたい。どうすれば魅力ある町にできるかということを考えなければいけない。

●事務局

言われたとおりである。都会からの移住と産業振興は社会増という面で根本は同じで、仕事があって住まいがあるという形になる。密接に関わってくるので地域づくりの部分も含めて、できるだけ多くの若い人が光市に来て働き、子どもを産んでもらえるような戦略にすることが大事だと思う。また色々ご提案をいただきたい。

●委員

ニューファーマーの方はネットで調べて光市に来たのかと思っていたが、話を聞くと家が気に入って光市に来たとのことだ。例えば観光で来た方が、海の見える町はいいな、ここに住んでみたいなと思ったときに空き家情報をパンフレット等で提供できれば良いと思う。

●委員

私も夫も光市出身ではなかったが、農業をするなら海が近いところがいいと思った。束荷で土地と家を借りて移住してから1年になる。光にこだわっていきたいと思う。光市の独自の魅力発信強化については、移住した、外から来た人の意見を取り入れた方が良いと思う。地元の方でとても素敵なお話をしてくれる人は多くいるが、それが当たり前すぎていいことと思っていない。他のことにつながるものもあると思うので、色々な方法で発信していければ良いと思う。

●事務局

移住した人の声が効果的だとのことだが、先ほど紹介した移住ナビの中でも実際に移住した人の声も載せている。これまでもホームページでやってきたが、改めて編集して外に発信していきたいと思う。皆様にもぜひ情報提供をお願いしたい。

空き家バンク事業を始めたが、今後はこれに改善を加えながら色々な方が集まれる制度にしなければいけないと思う。それと合わせてお試し居住制度についても地元定着につながると思うので、気楽に光市を体験してもらえると市として検討したい。

●委員

若手中心の光発信プロジェクトチームについて、どのような活動をしているのか聞きたい。光の魅力を知ってもらうために、例えば夏休み中に都会の子ども達を光市に呼ぶことを市が中心となってやることも一つの手ではないか。子どものレベルからアピールすることが大事だと思う。

●事務局

プロジェクトチームは7月に設置し、これまでに2回会議をしている。その中で「光」の名前の発信に資する事業を検討しているところである。20人のメンバーでやっているが、例えば神戸ルミナリエのような事業や、「光」をテーマにした絵画展を町中でやること、室積半島全体のライトアップ、学校で子ども達に科学の側面から電気、LED等をテーマにした出前講座をやることなど様々なアイデアが出てきた。

これらの意見の中から総合戦略に盛り込んで5年間のうちに事業化していけるものを選別しながら最終案までには位置づけていきたいと考えている。

●委員

居住者の促進について、全体的に基準値を作成するにあたっていかに具体的に現状を把握するかが大きな課題であると思う。例えば雇用促進について、大企業以外の企業についても具体的な数値を把握する必要がある。それをやらずに言葉だけで目標を決めてしまうと漠然としすぎて何が必要かわからなくなるので、例えば雇用であれば第六次産

業化にターゲットを絞ろうとか、移住であれば都会からの移住者を直接引っ張ってくるという目標を最重点化することができる。移住者促進について、通勤電車の中に光市をアピールするものがあれば良いと思う。自然や生活環境、教育環境をアピールしてほしい。PDCAサイクルの図について、よくわからないので説明してほしい。

●事務局

図については、全体的な評価・検証に関わる方々を整理した形になっている。本協議会でも審議し、行政内部でも協議するが、そのような体制図を示したものである。基準値と目標値の件について、基準値は各項目の近況値、統計等で出た客観的なデータであり、それをベースに5年後の目標を検討することとなるため、最終案の中ではセットで示したい。人口定住についてはPRの方法等を検討していきたい。

●委員

移住者の方から光市に入ってきたときの気持ちやそこに至るまでの大変だったこと、今大変なことなどの話を聞いて興味深いと思った。もっと色々な場所で話を聞きたいと思う。移住促進と定住支援について考えてみたら、私の場合はたまたま光市に職場があったので光市に住むこととなった。おそらくそのような人は多いと思う。下松でも田布施でも柳井でも良いと考えている人に対してどのように魅力をアピールするかという視点を持つ必要があると思う。息子に帰ってきて欲しいと思っているが、その気はないようだ。先日広報を見ていたら県内で産業関係の仕事についていたら返還しなくてもいい奨学金制度が載っていて息子に写真を送ってみた。これは県が考えて実施している事業だが、いかに当事者にPRするかが大事である。みんなですれれば良いか意見を出し合って人口が増える町になったらよいと思う。

●委員

何らかのメリットがないと企業も人もよってこないと思うがいかかが。移住してくる人に対しても企業に対しても助成制度などが必要だと考える。

●事務局

メリットは、金銭的なものも含めて人それぞれ考え方があってと思う。先ほど例に出したお試し居住について、地域の人に生活相談をすることなども含めて出来れば光市に対する好感度は上がると思う。そのような行政が作るメリットもあるが、地域やコミュニティが移住者を支えていただける土壌作りが一つの売りになっていくと思う。移住者に対する助成制度は各地で例があるが、どのようなものがあるか、過当競争になってもいけないのでどのようなことができるか考えさせていきたい。

●委員

私は東京生まれで、夫の仕事の関係で7年前に光市へ来た。引っ越してきて良かったことは、光には何もなくて、人が少ないことである。私にとっては一つ一つに価値があると思える。商売の意欲もわいてくる。都会の人から見たらきっと宝石箱のように思えると思う。光市まちづくり市民アンケート結果報告書を見ると、「光市に住む理由は何か」との問いに対する答えで多いのは「家や土地があるから」、「住環境が良いから」、「地域

や人に愛着があるから」という項目であり、逆に少ないのが、「やりたい仕事があるから」、「通勤通学に便利だから」「充実した余暇・趣味が楽しめるから」である。都会は多分これが逆だと思う。だからこの高い所3つを重点的に掘り下げると良いと思う。色々な分野に広がりPR方法も難しいと思うがこの3つが魅力向上の近道になると思う。行政はイベント企画の専門ではないので、限界があると思う。それぞれの専門家を入れて話して創り上げていく必要があると思う。この会議の進め方についても検討する必要があると思う。

●事務局

都会にはない部分を魅力に変えてもらえれば、光市の良さも膨らむと思う。対外的にもその部分を発信していく必要があると思う。進め方について、総合戦略については時間的な制約もあるためこのような形で進めるが、総合計画については分科会方式などを検討していきたい。

【政策目標③】「結婚・出産・子育ての希望実現」

●委員

資料中の表現について、「希望を叶える」と漢字で表記してある部分と「希望をかなえる」と平仮名で表記している部分があるので整合性を図るためにもどちらかに統一する必要がある。「児童・生徒」との表記も点がある部分とない部分があるので統一するべき。

●委員

基本戦略の④と⑤について両方とも義務教育が中心と思うが、教育の質を保証するためにどうしていくかということを行っている気がする。その中で基本戦略④は内容も理解できる。一方で基本戦略⑤について「やさしき教育」がどのようなものを意味するのか説明して欲しい。

●事務局

一言で言えば、一人ひとりの児童生徒に目を向けて大切に教育にするというような意味合いで載せている。施策の1番目についてはそれぞれの夢や希望にこたえられるように質の高い教育を提供するという形である。施策の2, 3番目については特別支援教育の充実を図っていく観点から、一人ひとりの個性を大切にしていきたい、一人ひとりに目を向けていじめや不登校の未然防止や対応の充実を図っていきたいという思いで載せている。

●委員

言葉としては「きめ細かな教育」や「豊かな教育」ということだと思う。もちろん特別支援教育やいじめ・不登校の未然防止も大事なことであるから学校も今一生懸命やっているところであるが、要するに知・徳・体の調和のとれた生涯にわたってたくましく育て幸せな人生を生きていく基礎をしっかりと子ども達に保証することが大事である。少しマイナスのところによった施策になっている気がする。例えば、志を育み社会的な自立を支援する教育だとか、もう少し未来志向のものを打ち出した方が良いと思う。

●事務局

教育委員会とも協議をしたい。ここの基本戦略の発想は「光っ子サポーター」の配置であるとか、一人の落ちこぼれも作らないというきめ細かさを特徴付けてやってきているのでこれを強化したいという思いである。それにより充実した子育て環境ができると考えている。光市が今、持っている良いところを伸ばそうという思いで作ったところであるが、また検討させていただきたい。

●委員

このメンバーで色々意見を言っているが、若い人の話を聞いてみたい。せめて3分の1ぐらいは25から30歳ぐらいの人に委員になってもらって、若い人の意見を聞きたい。実際にどう思っているのか聞きたいと思う。

●委員

福祉関係をしているので強く思うが、あいぱーくに保健福祉相談窓口として一元化していることは光市の魅力だと思うのでこれをアピールすれば良いと思う。非常に住みやすくて良い市だと思っている。

【政策目標④】「時代にあった都市経営」

●委員

基本戦略が3つ示されているが、もう一つ、「高齢者がいきいきと活躍できる町、高齢者活動応援戦略」を基本戦略に加えてほしい。その理由はこれから高齢化比率が高まり、65歳以上の割合が3分の1以上になる。高齢者は高齢者としての役割を感じて社会のために貢献したいと思っている。私は老人クラブの世話をしているが、老人クラブの活性化を応援してほしい。高齢者が健康になれば医療費も削減できるし、社会に貢献できると思う。ぜひこれを加えてほしい。

●事務局

戦略をまとめる入口の部分でずいぶん悩んだ。最初の会議で人口定住について、若者をターゲットにするのか高齢者をターゲットにするのかといった意見もあったが、今回は若者を基本的にはターゲットにして施策をまとめてきたつもりである。今、委員が言われた高齢者がいきいきと活躍できる町が、まさしく住みやすさを強調して最終的に移住に繋がるという考え方はごもっともであるし、その思いを決して否定するわけではないが、これに高齢者施策を入れようとする戦略一つでは済まない。迷った挙句、今回は高齢者を対象にした施策にはしていない。これをベースにしながら、来年総合計画を策定するが、その中では大きなテーマの一つになると考えている。これについてはご理解いただきたい。

●委員

東京から地方に高齢者を移すという話があるが、高齢者すべてが認知症や病人ではない。元気な高齢者もたくさんいる。3人に1人が高齢者となるが、戦略に入っていられないのか。

●事務局

全く無視しているわけではないが、今回のとりまとめる総合戦略は若者をターゲットにしている。これは総合計画ではなく、あくまで若者を中心に人口定住を増やす総合戦略である。今言われた話は、総合計画の中の大きな柱になる。

●委員

「時代にあった」という意味は何なのか？これは高齢化が進み、人口が減少するという時代の条件に対応したものという理解でよいか。

●事務局

その通りである。

●委員

老人クラブが目指すものは「自立」である。若い人に養ってもらうのではなく、高齢者が高齢者を支えるまちづくりを重点目標にしている。これを皆さんにわかってもらいたい。

●事務局

高齢者施策をないがしろにしているわけではないし、光市のまちづくりを考える時には、高齢化率が高くなる中で、高齢者が住みやすく、いつまでも元気で活躍できるようにする施策は本当に必要だと思う。ただ、今回は人口定住という若者を中心としたものであるから、今の意見は次の総合計画には必ずつながってくるし、大きな柱になると考えている。

5 その他

○ 事務局から今後の予定等について連絡

- ・人口定住促進プロモーションビデオ「ひかりのまち」の紹介（会場で上映）
- ・次回会議の開催時期は10月20日頃を予定
（光市人口ビジョン及び光市総合戦略の最終案について）

第一部終了 20時38分

第二部 座談会

出席者 委員 8名
事務局 7名

●委員

家を見つけるのがすごく大変だったから空き家バンクのようなものが欲しかった。どこに相談に行けばよいかのかわかりにくかった。主人が1年間、農事組合法人で働いたことで地域の人とのつながりができて何とかあったが、そのようなことがなくていきなり来た人が家を見つけることはとても大変だと思う。

●委員

空き家があっても住める状態でないことが多い。家財道具等の処分や掃除等にも多額の費用がかかってしまうので、補助制度のようなものがあれば良いと思う。

●委員

不要になった市の施設を改修して、何か事業をやろうとしている人に貸し出しができるような制度があれば良いのではないか。

●委員

ゆるキャラなど他でもやっていることではなく、全然違う新しいことをやるべき。

●委員

産業の中には外からお金を稼いでくる形でビジネスを回すものと、地域の中で消費するものがある。前者のものでないと新たな雇用の場を生み出すことは難しいと思う。地産地消というのは守りの論理であると思う。地元の小さな農家や企業が外にアピールすることはとても難しいので、行政にはショーウィンドウの役割を果たして欲しい。

●委員

一度ある場所に定着してしまったら、移住を決断することは難しくハードルが高いと思う。大切なのはお得感であるから、一度都会に出た学生が戻ってくるような誘導策が必要であると思う。

●委員

理想論かもしれないが、地域に根ざしたお祭りなどがあれば一度都会に出て行った人も戻ってきやすくなると思う。

●委員

各地域で行われている様々な制度を知らない市民も多いと思うので、何らかの方法でアピールできれば良いと思う。

●委員

地方には仕事の選択肢が少ないので、キャリアのある女性の行き場がないことが問題である。子育てが一段落した後で再就職することが難しくなる。

●委員

光市の3割を占めるお年寄りの「おせっかい」を活用することが大事ではないか。

●委員

光市は子育てに優しいというイメージがあるが、正直に言って医療費助成等の制度は他の市に負けている。イメージだけだと思う。

●委員

このような会議の場で発言したことが具体的な形として成果が現れると、もっと意見を言おうという雰囲気が醸成されると思う。同じことを何度も言って結局何も変わらないのであれば誰も意見を言わなくなってしまう。

●委員

医療福祉の充実戦略の中で高齢者に関する記載があるが、障害者の視点がないため、取り入れて欲しい。

第二部終了 21時59分